

早期エリにおけるアユ漁獲量の地域差要因の検討

久米弘人

1. 目的

平成30年12月のエリ漁では、アユは順調に漁獲されたが、その漁獲量では地域差が見られた。その要因を解明するため、漁獲アユの耳石解析から漁獲量の地域差要因を検討した。

2. 方法

平成30年12月1日に南東部の3漁協（堅田、守山、中主）と北西部3漁協（今津、百瀬、西浅井）で漁獲されたアユから、1漁協あたり30尾ずつ耳石を摘出し、日齢査定を行うとともに、測定した日周輪間隔と耳石径からBiological intercept法による逆算推定した体長の平均成長速度（mm/日）を比較した。

3. 結果

12月1日にエリで漁獲されたアユのふ化時

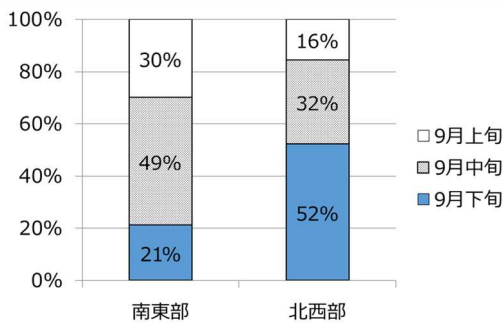


図1. 12月1日エリ漁獲アユのふ化時期割合

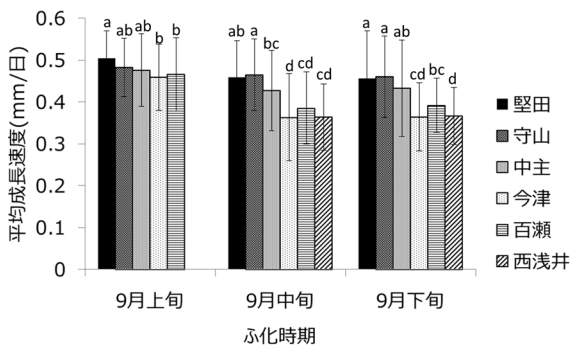


図2. ふ化時期ごとの平均成長速度

期は南東部と北西部の両地域とも9月中であった。それらを旬別にみると、その割合は南東部と北西部で異なり、南東部のほうが、9月の早い時期にふ化したアユが多く漁獲されていた（図1）。ふ化してから、11月末までの平均成長速度（mm/日）は南東部で北西部よりも速く、9月のどの旬においても南東部の地点と北西部の地点間で有意な差がみられた（図2、Steel-Dwass 多重比較 $p < 0.05$ ）。南東部2漁協と北西部3漁協で、9月中旬生まれと9月下旬生まれの平均成長速度を平成29年と比較したところ、北西部でのみ有意な差が見られ、平成30年の成長が悪かった（図3 Welch t-test $p < 0.01$ ）。早期エリ漁獲量の地域差は、漁獲アユのふ化時期の違いと成長速度の差と考えられた。

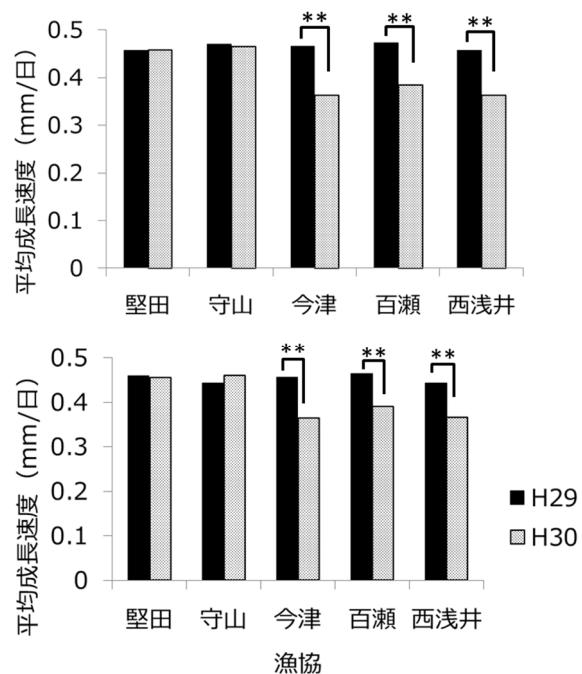


図3. 漁協別平均成長速度比較 (H29-H30)
(上:9月中旬生まれ、下:9月下旬生まれ)